

学年だより

義務教育学校 第7学年

第3号



2019年5月30日発行

初めての海外 「私」と「英語」

7年C組担任

入学式から2ヶ月。みなさんの生活の記録を開くと、「初めての授業」や「初めての部活」など、「初めて〇〇」という言葉がたくさん並んでおり、そこに綴られた前向きな気持ちを、毎日清々しい気持ちで読ませていただきました。

人生の中で何度か出くわす「初めての〇〇」ですが、私にとっては、今でも「初めての海外」が忘れられません。初めて海外を訪れたのは、高校2年生の夏。通っていた高校のALTの出身地がスコットランドだったということもあり、そこに短期留学することになったのです。両親は共働きだったので実家で別れを告げ、友人とたった二人で関西国際空港へ向かいました。高校生の私たちにとっては、関空まで行くことですらくわくドキドキの冒険であり、さらに到着した空港では、そのオープンしたてのきらびやかさに完全に心が奪われていました。しかし、次の瞬間。私たちが搭乗する飛行機に1時間ほど遅延が出るという館内放送が鳴り響いたのです。「えっ、てことは、次に乗り継ぐ飛行機に間に合わないってこと…!?!」

私たちは、まず、関空からオランダに行き、そこで、約40分後に出発するスコットランド行きの飛行機に乗り継ぐ予定でした。当時、スマホはもちろん携帯電話すらなく、ありったけの10円玉を投入して公衆電話から母の職場に電話をしました。しかし、母も完全に打つ手なし。「もう仕方がないから、とにかくその飛行機に乗りなさい!」とだけ言い残し、電話が切られました。

案の定、オランダに着いた私たちは、欧米人が行き交う巨大空港のど真ん中で途方に暮れることになりました。”E... Excuse me...”何とかしなくてはという思いで、道行く人に話しかけてはみるものの、伝わらない、聞き取れない。諦めかけたそのときでした。「どうされましたか？」

日本語で声をかけてくれたのは、たまたま同じ飛行機に乗っていたCAさんだったのです。事情を話すと、「私について来てください」と言い、それは素晴らしく流ちょうな英語で私たちの航空券を手配してくれたのです。そして、「これでスコットランドに行けますよ」と微笑み、新たな航空券を手渡してくれました。彼女の姿は刺激的で本当に格好良く、「私」と「英語」をつなぐきっかけにもなった瞬間でした。

そして、何とかスコットランド・エディンバラ空港に到着。着いたときにはもう真夜中で、昼間は人で賑わう到着ロビーも閑散としていました。もちろん、迎えに来てくれるはずだったホームステイ先の家族もいません。そのとき思い浮かんだのがオランダで私たちを救ってくれたCAさんの姿でした。私も足早にインフォメーションカウンターに行き、身振り手振りを交えながら、何とか英語で伝えることを試みました。

真夜中の空港に、“C K from JAPAN”という放送が鳴り響いたときの恥ずかしさは今でも忘れられませんが、それから程なく、ホストマザーと対面することができたときには、それ以上に安堵感と達成感が込み上げてきました。

英語を学び続ける中では英語に苦しむ場面の方が多いかもしれません。しかし、英語で話すことに挑戦していくことで、これまで接点のなかった「人と人」や「人と物（情報・知識）」とがつながる瞬間が必ず訪れます。さらに、それが人の助けになるときもあります。現在、私は英語を教える立場ではありますが、みなさんと同じく学び続ける立場でもあります。英語学習の難しさや苦しみも共有しながら、英語を通じて他者とのつながりを感じられる時間を創っていきたいと思います。ちなみに、私たちの恩人であるあの CA さん。なんと、帰りの便でも一緒になり、夏休みの宿題に迫われ、機内で一睡もできなかった私にカップヌードルを作って持って来てくれました。優しくて本当に素敵な方でした。

附族7年アルバム 5月

学年道徳（5／27）

「全校一を目指して」：空き缶回収活動の問題点について話し合い、集団の一員としての役割や責任について考えました。



宿泊学習（5／9・10）



今までに体験したことがないような、急な上り坂でしたが、その分頂上からの眺めにはさすがしさを感じました。クラスを解いて編成したグループでのお弁当も格別でした。



野外活動部門長

7-B

私は、野外活動で学んだことがあります。それは、時間の使い方です。当日野外活動が始まるのが、20分も遅れてしまいました。その原因は、説明が長かったことだと思います。この体験を生かして、これからは伝えたいことを簡潔にまとめて、わかりやすく話したいです。

しかし、よかった点もあります。それは、時間が足りなかったので、討論部門の人と時間のやり取りをしたことです。自分で考えて動けたのは良かったと思います。自分は、部門長の活動を通して時間の大切さがわかりました。これからの学校生活に生かしたいです。



「工夫リレー」と「107+先生全員いす取りゲーム」でもりあがりました。



レクレーション部門

7-A

僕ははじめ部門長になろうとは思っていませんでした。しかし、後期課程に進級して、新しいことに挑戦したいと思い部門長に立候補しました。はじめは、みんなをうまくまとめることができず、本当にレクレーションを成功させることができるのか心配でした。でも、僕が中心になって話を進めていかないとよりよいレクレーションを創っていけないと思い、がんばって進めました。

宿泊学習当日の準備までは順調に進めることができたけれど、いざ全体を仕切るとなると、緊張してあせってしまいました。でも、みんなで協力して、楽しいレクレーションができて良かったです。



食事・野外炊さん部門長

7-B

僕は、皆さんに伝えたいことと、部門長になって学んだことがあります。

皆さんに伝えたい事は、「時間」についてです。僕も、時間を守れず、食事の片づけのとき、あまり、サポートができませんでした。でも、時間を守れば、ワンランク上の活動ができると思います。

部門長としての感想は、小学校では、部門別活動はあっても、ここまでの大人数を動かすことはなかったので、人を動かすのはとても難しいと感じました。人を動かす力を身につけたいと思いました。





入所式

生活部門長

7-C

僕は、この2日間、自主的に動く、部門の人たちを動かすということを重視していました。でも、自主的に動くことができて、人を動かすというのは、リーダーなど人の前に立つ経験がたくさんないと身につかないことを実感しました。

振り返り集会のとき先生が話されていた「段取り力」、リーダーそれぞれの「リーダーシップ」と、リーダーをしっかりと支える「メンバーシップ」のすべてが揃わないと、集団の力が発揮できないこともわかりました。これからは、これら3つのことを大切に、この後も続く学年目標決めの討論会や学P活動に役立てていきたいです。



式典部門長

7-A

僕はこれまで、行事などを自分たちで創りあげるといことは、経験したことがありませんでした。この宿泊学習を経験し、附属の素晴らしさを知り、たくさんのことを学ぶことができました。

僕は、小学生の時に応援団長や委員長をやりました。でも、先生からの指示で動くことが多く、先生と生徒で創りあげていきました。自分たちで計画を立てて、行動する。時には戸惑ってしまったこともありましたが、成功させることができました。

僕は附属で学校生活を送ることができて、とても嬉しいです。宿泊学習での経験をこれからの学Pや学校行事で生かしていけるように頑張りたいです。

朝のつどい

ラジオ体操で、すがすがしい一日のスタートをきりました。



退所式

生活部門長からは、2日間の振り返りとこれからの課題が提案されました。



討論会

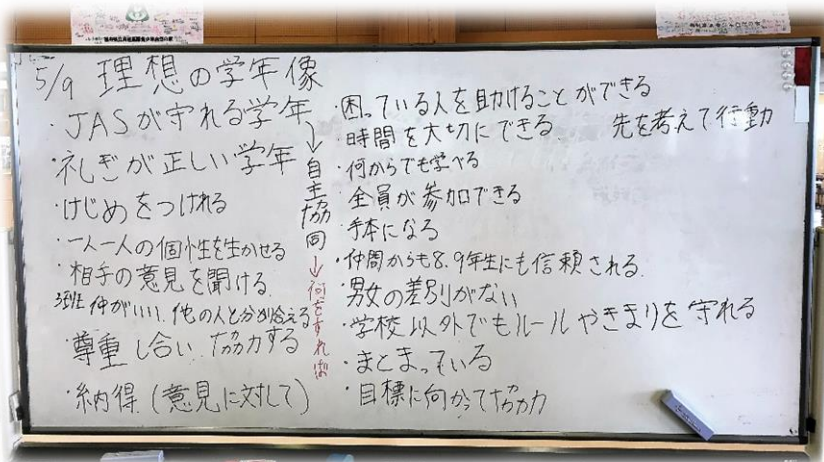
討論会部門長

7-B

討論部門は宿泊学習の最大のイベントの討論会の司会，進行をしました。宿泊学習に行く前にも，「なぜ5月なのか」，「なぜ宿泊なのか」を話し合いました。その場面では，みんながとても協力してくれて，本当に感謝しています。宿泊学習当日は，みんなはたくさん発表してくれて，討論部門の私たちは，とても助かりました。けれど，今，何をすべきかなどの情報を伝え忘れてしまって，その点は反省しています。でも結果的に，とても有意義な討論をできたと思います。協力が必要不可欠な討論会で，考えを深めることができたのはみんなのおかげです。ありがとうございました。



理想の学年像に迫りました。提案されたキーワードを全員で共通理解する必要性が課題としてみえてきました。



理想の学年像に入りたいキーワード

メリハリ 臨機応変 時間

全員が参加 主体的 尊重

一所懸命 個性 信頼

それぞれの目標を達成するためには，どの程度の時間が必要なのか，短期目標長期目標に分類する必要性を見いだしました。

宿泊学習後の「振り返り集会」では、それぞれの部門から反省点が出されました。

宿泊学習を通して、「時間を守る」が7年生の大きな課題であることがわかりました。



生徒総会（5／16）

二時間半に及んで前期生徒会活動について話し合いました。先輩達と並んで、7年生からも提案や質問が出されました。



親子演劇鑑賞会（5／23）

9年生は文化祭で学級演劇を披露します。それに向けての学習会も兼ねた鑑賞会でした。